令和３年度　租税教育に関する研究発表要項

岩沼市立岩沼北中学校
教　諭　　古川　明子

１　研究主題

『租税の意義や役割を正しく理解し，納税者として社会や国の在り方などを主体的に考えることができる生徒の育成』　　～身近な地域の調べ学習を通して～

２　主題設定の理由

学習指導要領における租税の意義と役割の扱いとして「統計資料などを有効に活用しながら租税の大まかな仕組みやその特徴にも触れ，国民生活に大きな影響力をもつ財政を支える租税の意義や税制度の基礎を理解できるようにする。」とある。また，日本国憲法では日本国民の義務の一つとして納税の義務が掲げられている。国民が教育を受け，勤労し，税を納め，持続可能な社会を作っていくことは今後の日本の発展にとって大事なことである。さらに，次世代を担う生徒たちが国の基本である税の役割や意義，納税者の権利や義務を正しく理解し，国や社会の在り方を主体的に考えることは，民主国家の維持・発展にとっても重要なことと考えられる。

一方で，生徒のアンケートの結果から税金の種類や，どのように徴収され，何に使われているかなど具体的なしくみや働きについての認識が低いことが分かった。また，税を納めることについては前向きな気持ちをもっている生徒が少ないことも見えてきた。特に，身近な税金である消費税については，これ以上の増税に反対であるという意見が大多数であった。さらに消費税がどのように使われているかを理解している生徒は，ほとんどいなかった。

私たちは，収入の一部を割いて税金を納めている。税がどのように使われているか，また正しく使われているのかなどに関心をもつ必要があると思われる。税の配分によって私たちの生活は大きく変わっていく。 特に自然災害や，現在のコロナ禍のような不測の事態の時に税の存在が国民生活に大きく関わってくる。生徒が国民として，また将来の主権者として日本の税制度について正しい認識をもつことは，非常に大事なことである。よって生徒の一人ひとりが，税のあるべき姿をしっかりと捉え，自分たちの手で国政をより良くしていこうとする関心や態度を育てたいと考え，本主題を設定した。

３　研究目標

税金の意義や役割を正しく理解し，納税者として主体的に国政に関わろうとする態度を育成する指導のあり方を探る。

４　研究仮説

身近な地域の資料を使いながら，納税者の立場になり課題に取り組むことで，税に関しての理解が深まり，主体的に国政に関わろうとする態度が育つだろう。

5　研究方法

（1）アンケート調査により，生徒の税に関する実態を把握する。（令和３年７月実施）

（2）実践授業＜１＞　税に関する資料（「私たちの暮らしと税」制作：宮城県租税教育協議会仙台国税局）を用いて，租税の種類や役割を理解する。

実践授業＜２＞　税の公平性についてワークシートを使い，意見交換をする。

実践授業＜３＞　タブレットを用いて，個々で岩沼市の財政を調べまとめる。

実践授業＜４＞　岩沼市の税金がどのように使われ，自分たちの生活にどのように関わっているのかをタブレットで調べ，より良い税金の使い方について考える。

実践授業＜５＞　社会保障制度を学びながら，これからの日本の財政について考える（「小さな政府か」「大きな政府か」を外国と比較し意見交換する。）

（3）事後調査を行い，生徒の変容を把握する。（令和３年10月実施）

6　研究の概要

（1）税に関するアンケート調査　（中学３年　全３クラス　77名）　令和３年７月実施

① 知っている税金の名前を書いて下さい。（複数回答可）

消費税（　71名　）　所得税（　30名　）　住民税（　10名　）　酒税（　15名　）
関税（　40名　）　自動車税（　45名　）　固定資産税（　7名　）
法人税（　5名　）　分からない（　6名　）

② 納めた税金は何に使われていると思いますか。（複数回答可）

道路整備（48名）　年金（61名）　医療費（35名）　救急車（18名）
教育（37名）　公務員の給料（28名）　介護関係（17名）
分からない（28名）

③ 税金を納めたいと思いますか。

納めたい（ 32.3% ）　納めたくない（　67.7% ）

＜理由＞

〇納めたい

・生活が良くなるから　・道路や信号など公共施設に使うから　・年金
・教科書などが無償で給付されるから　・国のためになるから

〇納めたくない

・給料が減るから　・お金がもったいないから　・負担が増えるから
・何に使われているか分からないから　・正しく使われてないから
・消費税がだんだん増えてきているから　・貯金が増えない

④ 消費税の増税に賛成ですか。

賛成（　25.5%　）　反対（　74.5%　）

⑤ 消費税が，８%から１０%になった理由が分かりますか。

分かる（　15.3%　）　分からない（　84.7%　）

⑥ 岩沼市の財政に興味がありますか。

興味がある（　87.7% ）　興味がない（ 12.3% ）

＜実態調査の考察＞

知っている税金の種類としては，消費税と書く生徒がほとんどであった。その理由としては普段の生活で一番身近であり，自分自身も納税しているという意識があるからだと思われる。また 10%へと増税があり関心が高まっていとも推測される。しかし，認知度が高い消費税ではあるが，なぜ10%になったのか，何に使われているのかなどの問いに対して答えることができた生徒はほとんどいなかった。自分自身が税を納めているにもかかわらず，納める理由が分からないのである。このことが，納税に対する抵抗感をもつ遠因にもなっているようである。また固定資産税や住民税，法人税などを記入する生徒は少なかった。一方で，たばこ税や，酒税，自動車税など複数記入した生徒もおり，租税に対する知識には，やや個人差があることがうかがえる。

税金の使われ方では，教科書や学校，医療費など身近なものをイメージしている生徒が多く，生活を良くするために使われていることを理解していることが分かる。反面，何に使われているか分からない生徒が 28 名いた。そのことが納税に対しての否定的な思考につながっていると考えられる。また，自分たちの住んでいる岩沼市の財政に興味を持っている生徒が，8 割以上であった。よって，租税学習を実践する上で，岩沼市の財政の様子や税金がどのように市政や岩沼市民に反映されているのかを調べながら，税の意義や役割を具体的に把握することが有効であるといえる。

（2）実践授業（全５時間扱い）

実践授業＜１＞　「　税のしくみを理解する　」　（1 時間扱い）

各自，タブレットを使い『NHK　for　school』の『アクティブ１０公民「税金，安けりゃイイの？」』という番組を見て租税について学ぶことへの興味・関心を高めさせた。次に税金に関する資料（「私たちの暮らしと税」制作：宮城県租税教育協議会　仙台国税局）を用いて「税金はなぜ必要か」「税金の種類」「税金のしくみ」について学習した。

＜成果＞

８分の番組であり，自分のタブレットなので画面を静止してメモを取ったり，巻き戻しをしてもう一度見たりする生徒などがいた。租税への興味・関心を高まるという点と，税のそれぞれの特色を掴むという点において効果的であった。また，税金に関する資料においては，具体的な数字や説明が分かりやすく記載されているので税金の必要性やしくみなどを理解するのに非常に効果的であった。特に生徒たちが興味を示したのが，公立学校の生徒１人当たりの年間教育費の税金での負担額である。中学生１人当たりが年間約 105 万円にもなることに驚いた様子であった。

実践授業＜２＞　　「　税の公平性について考える　」　(1 時間扱い)

課題プリント「1 万円の食事会」を用いて，税の公平性について考えさせた。小グループで意見交換をし，考えを共有したり深めたりした。その後，累進課税制度について学習した。

＜生徒の考え＞

・5 人とも公平に 2,000 円ずつ支払う。
・あくまでも収入が多い人が払うべき。
・豊かな人が多く支払うべきであるが，無職の E さんは，さすがに支払わないのはだめなので 1,000 円に設定した。
・食べる量が多い人が，多めに支払う。
・みんながまずは，2,000 円ずつ支払う。そこから，お酒を飲む人とたくさん食べる人がさらに 500 円ずつ支払う。その合計 1,000 円分を無職の年金暮らしの E さんに支払う。
・お酒をたくさん飲む C さんは，酒税を納めているので多く支払う必要がない。

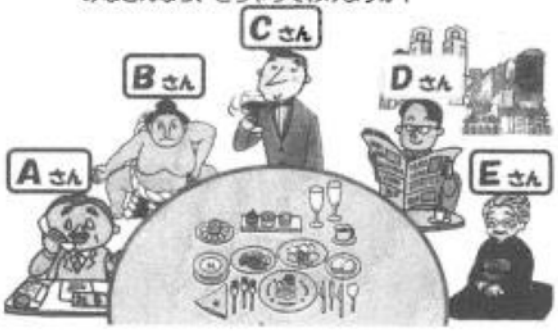
＜成果＞

課題の内容が身近で分かりやすい内容だったので，どの生徒も取り組みやすいようであった。小グループでの意見交換も様々な考えが飛び交い，活発にできた。また前時に学習した酒税や法人税，固定資産税などの語句が意見交換で使われていた。予想以上に様々な意見が出てきて学び合いの中から，税の公平性について深く追究することができた。さらに意見交換の後にスムーズに累進課税制度の説明に入ることができた。

一万円の食事会

公平とは？（税金の種類と仕組）

【問題】ある食事会の費用が１万円かかりました。
みなさんなら、どうやってわけますか？



	職業	どんな人？	払う金額
Aさん	大会社の社長	すごいお金持ちです	円
Bさん	お相撲さん	たくさん食べます	円
Cさん	会社員	たくさんお酒を飲みます	円
Dさん	資産家	多くのアパートを持っています	円
Eさん	無職	年金暮らしです	円

合計 10,000 円

多く払う人や少なく払う人など、どのような負担がいいでしょうか？
払う金額欄に金額を入れて、その理由を書いてください。

理　由

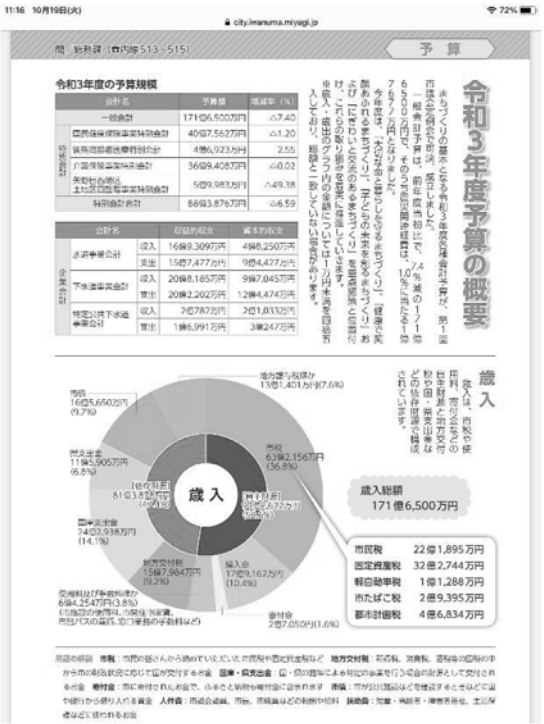
実践授業＜３＞　　「岩沼市の財政を調べ，まとめよう」（1 時間扱い）

まず，令和３年度の岩沼市の歳入を予測させた。すると 1,000 万円や１億円と答える生徒が多く，実際には 171 億 6500 万円の歳入ということを知り，その金額の大きさに驚く生徒が多くいた。岩沼市の財政については曖昧なイメージしかない生徒が多いことが分かった。

次に，各自タブレットを使い岩沼市の財政を調べ，分かったことをまとめさせた。以下のようなことを生徒はまとめた。

＜分かったこと＞　（一部抜粋　原文のまま）

・歳入の約４割が市税となっている。その中でも固定資産税が一番多い。
・歳出では，扶助費が一番多い。高齢化が進んでいることが分かる。
・年々，市の予算が減少している。（震災復興費の減少のためと少子高齢化のためか？）
・依存財源が年々増加している。
・国からの補助金が４７％であり，国からの補助金があることが分かった。
・民生費の歳出が多いことから，岩沼市は社会保障がしっかりしていることが分かった。
・軽自動車税が平成 30 年度は 9,235 万円だったが，令和３年度は１億円 1288 万円であり軽自動車に乗る人が増加している。
・寄付金２億円の中には，ふるさと納税が含まれている。
・歳出の１割は教育費に使っている。市民１人あたりの支出額にすると 47,749 円で，予想以上に高いことが分かった。
・平成 29 年度の歳入では，震災復興特別交付税として 13 億円支給された。復興の総仕上げとして国から支給されたことが分かった。
・角田市と比較した。岩沼市は市税が全体の 36.8%で角田市は全体の 11%である。しかし歳入は岩沼市は 171 億 6,500 万円で，角田市は 131 億 2000 万円である。市税は岩沼市の方が約４倍多いのに，市税は２倍にもならないので疑問に思った。もう少し調べてみようと思う。
・市民１人あたりで見る予算額をみると，収入額が 143,940 円で支出額が 390,387 円である。岩沼市民は，税金で安心で住みよい生活を保障されていることが分かった。



＜成果＞

自分たちの住んでいる市の財政ということで，生徒は意欲的に課題に取り組んでいた。タブレットを使用しながらの調べ学習は定期的に実施しているのでスムーズに学習を進めることができた。学習課題は，令和３年度の岩沼市の財政を調べるである。自発的に数年間の岩沼市の歳入・歳出を比較したり，名取市や仙台市などの近隣の市と比較したりと学習の広がりが見られた。特に角田市と比較することにより，さらに疑問が発生し課題の追究をする生徒がいたことが，大きな成果と思われる。また，納税を行うことにより，自分たちの生活が安心かつ快適に過ごせることに気付いた生徒が多かった点も成果である。

実践授業＜４＞　　「より良い税の使い方を考えよう」（1 時間扱い）

学習課題　「岩沼市の重点施策として 『大切な命と暮らしを守るまちづくり』『健康で笑顔あふれるまちづくり』 『子どもの未来を創るまちづくり』　　『にぎわいと交流のあるまちづくり』 があります。そのために岩沼市はどんな取り組みを行っているか調べましょう。」

以上のような学習課題を設定し，各自がタブレットを用いながら調べ学習に取り組んだ。その後クラス全体で発表会を行い，情報の共有を行った。その後，調べ学習を通して分かったことを発表した。

＜調べた内容＞（原文のまま）

・岩沼市交流プラザの建設
・千年希望の丘のレンタルサイクル
・ゴミ分別促進アプリ「さんあーる」
・防犯機能付電話機の無料貸し出し
・「バスの日」を設け，料金を 100 円とする。（9/15~9/30）
・あいバス・デマンドタクシーの運営
・東日本大震災追悼行事「希望の灯火」
・エココンパクトシティーの形成
・「ハローキティー」とコラボ応援大使　（岩沼市政５０周年記念）
・アニメ「バクテン」の制作（東日本大震災被災地支援の一環として）
・子どもの医療費助成
・教育関連（学校のエアコン設置　タブレットの支給　洋式トイレ化　いわぬま学び塾　自校給食）
・NPO 法人やボランティア団体を中心とした住民による自発的なまちづくりをしている。
・岩沼市の広報やいわぬまラーメンマップの発行。

＜成果＞

生徒たちは，前時と同じく熱心に課題に取り組んだ。タブレットを利用することにより，短時間に様々な情報を得ることができた。調べたことをまとめた後に，全員に発表してもらい，岩沼市のまちづくりについての情報を共有した。その後，調べ学習をして分かったことや気付いたことをノートにまとめた。ある生徒は「岩沼市では，様々なまちづくりが行われていることが分かった。知らなかったことが多いので，これからは積極的に調べて関わっていきたいと思った。また，市はもっと住民に伝えるべきだとも思った。」と発表した。

市としての取り組みが数多く挙げられ，自分たちの身近な生活の様々な場面で税金が使われていることに気付いた生徒が多かった。特に教育関係では，恵まれた環境にあると答えた生徒が多かった。

実践授業＜５＞　　「これからの日本の財政のあり方を考えよう」（1 時間扱い）

現在の日本の少子高齢化の状態と，2050 年の時の少子高齢化の読み取りを行った。次に日本の社会保障制度の仕組みを学習した。そして，今後の日本の財政の在り方として，アメリカのような低福祉低負担の「小さな政府」が良いか，スウェーデンのような高福祉高負担の「大きな政府」が良いかを考えた。以下のような意見が出た。

〇アメリカのような「低福祉低負担」が良い

＜理由＞

・税金を納めるのを少なくし，若いうちからお金を貯めて老後に備えるのが良い。
・子育てにはお金がかかるので，税の負担は少ないほうが良い。
・やはり消費税 10%は，生活する上で苦しいと思う。
・少子高齢化が進むなかで，逆に高福祉高負担は無理なような気がする。
・若い時は，車や家電など欲しい物がたくさんあるので税金の低負担が良いと思う。そして，政府は国民に高齢になった時に，安心して暮らしていけるように貯金をするように呼びかけてほしい。
・コロナの給付金のように，毎月 10 万円を国民に給付してほしい。そのお金をいざという時に各自が使うといいと思う。各自が，自分で社会保障費を準備するとよいのではと思う。

〇スウェーデンのような「高福祉高負担」が良い

＜理由＞

・生きていて，病気や不慮の事故などに遭った時に社会保障制度がしっかりしていると安心だから。
・高齢者になって仕事を退職したら，年金は必要だから。
・私たちが，安心して学校で勉強できるので。
・安心して子育てができるので。
・日本では，大学の授業料が高く進学したくてもできない人がいる。なので，スウェーデンのように大学まで無償にしてほしいと思うので。
・納めた税金は，私たちの生活に還元されるので。
・将来の日本の財政を考えたら，今のうちから税の高負担が良いと思う。
・イギリスのような「ゆりかごから墓場」までの社会保障制度に賛成だから。
・日本国憲法の「生存権」に「国は，すべての生活面について，社会福祉，社会保障及公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。」とあるので高福祉高負担が良いと思う。
・岩沼市の様々な取り組みを調べて，私たちは住み良い環境で生活していることが分かった。なので高福祉高負担が良いと思う。

＜成果＞

本時の学習は，「少子高齢化」と「日本の社会保障制度」を学習し，そこから今後の日本の財政を考える内容であった。内容的には，１時間では厳しいのではという思いがあった。そこで，これからの日本の財政については，アメリカとスウェーデンの国の社会保障制度を提示し，どちらの国の制度が望ましいかを考えさせ，意見を発表させてみた。すると予想以上に，多くの意見が挙げられた。３クラスのうち，どのクラスも「低福祉低負担」が良いと答えた生徒が３分の１で，「高福祉高負担」が良いと答えた生徒は３分の２であった。自分の意見をしっかりと言える生徒が多かった。また，前時までに学習したことを生かしながら発表する姿も見られた。特に将来に向けて日本はどうあるべきかを真剣に考えている様子が，伝わってきた。中には，コロナの給付金のことや，大学の授業料など国政にしっかりと向き合おうとする姿勢が見られる生徒もいた。このことは，研究主題である納税者として国の政治に主体的に考えられる生徒の育成に大きく近づいたといえる。

（3）事後アンケート調査　　（中学3年　全3クラス　76名）　　令和3年10月実施

① 日本の税金が何に使われているか理解できましたか。

理解できた（ 90.2% ）　　理解できなかった（ 9.8% ）

② 税金を納めたいと思いますか。

納めたい（ 100% ）　　納めたくない（ 0% ）

③ 消費税の増税に賛成ですか。

賛成（ 80.2% ）　　反対（ 19.8% ）

④ 消費税が，８%から１０%になった理由が分かりますか。

分かる（ 90.7% ）　　分からない（ 9.3% ）

⑤ 税金を納めることについての意識は，授業前と後では変わりましたか。

変わった（ 80.5% ）　　変わらない（ 15.5% ）

＜どのように意識が変わりましたか＞（一部抜粋　原文のまま）

・私たちが，今払っているお金は，今の高齢者のためだけだはなく将来の私たちのためでもあるということが分かり，悪いイメージではなくなった。お金の学習は難しそうでいやだと思っていたのですが，先生が大事なことだと言ったので，これから積極的に税金や日本の社会保障制度について学んでいこうと思った。
・税金は，,悪いイメージがあったが，集めた税金でまちの整備や医療のためなどに使われていると知って，良いイメージに変わった。
・悪い印象しかなかったが，教科書や医療費などが税金でまかなわれていることが分かり，税金は必要なものだと意識が変わった。税金がなければ，当たり前のことが当たり前にできていなかったと思った。
・以前は，国が借金を返すために税金を納めていると思っていた。しかし，租税学習を通して，税金は国民のために存在するものだと分かり，悪いイメージがなくなった。
・税金は何でこんなに高いのか，意味があるのだろうかと思っていた。しかし，その理由が分かり，税金を納めるのは，しょうがないと思うようになった。
・今までは，税金に対して何に使っているか分からない感じだった。税金についての授業を受けて税金の使われ方を明確に知ることができた。そして，ニュースや新聞などで税金のことが取り上げられると，積極的に見るようになった。
・税金の授業を受ける前は，消費税は本当に必要なのかと思っていたが，少子高齢化が進む日本には，とても必要だと思うようになった。
・授業を受ける前は，税金についてはぼんやりとしたイメージしかなかったが，授業を通して税金に対する理解が深まるようになり，とても身近なものと思うようになった。また，税金は私たちの生活に良くも悪くも深く関わってくるのだと思うようになった。

＜租税学習を通して何を学びましたか＞（一部抜粋　原文のまま）

・大人だけではなく，子どもである私たちも税金に関わっているので，それについて勉強するのは大事であることを学んだ。また他人事にしてはいけないとも思った。
・税金の種類や累進課税などの意味が分かり，学ぶことが多かった。
・最初は，お金をとられて勝手に使われそうで税金はいやだなと思っていた。しかし，この授業を通して国も国なりに考えて税金を使っているのだなと思うようになった。勝手に使うのではなく，年金や社会保障など国民の暮らしを守るために，消費税をアップさせていることも分かった。これから私たちが大人になっていく時に税金が増えたり，減ったりすることがあっても国民のためのものだなと思うことが大事だと思った。
・自分の住んでいる岩沼市の財政を詳しく知ることができて良かった。思った以上に岩沼市は住民が安心して生活できるように税金を使っていることが分かった。
・税金は，お金を取られるイメージだったが，今は国民の生活を支えてくれる大事なものだということが分かり，うれしくなった。
・消費税が増税した理由が，高齢化社会に向けてのものだと分かり，すっきりした。
・租税教室を通して，納税の大切さが分かった。
・限りある財源を効率的に使っていくことが必要だと思った。
・最初は消費税が公平だと思っていたが，「税の公平さ」を学習して改めて公平さについて深く考えることができた。そして，累進課税のことを学んで，本当の公平さに気付くことができた。
・租税学習を通して，外国の税金と比較し，日本の今後の財政について深く考えることができた。
・日本はこれから少子高齢化が進み，どうなるか不安になったが，クラスの人たちの意見を聞いてなるほどと思う考えがあった。これからも積極的に日本の政治に関わっていきたいと思った。

＜事後アンケートの考察＞

設問の「税金を納めたいと思いますか」では，学習前は32.3%だったが，学習後は100%となった。また消費税の増税にも，肯定的な考えを持つ生徒が大幅に増加した。税金が何に使われているかについてや，消費税の増税の理由もほとんどの生徒が理解できた。5時間の租税学習は，生徒が税の意義や役割を理解する上で，有効的であったと考えられる。また，「どのように意識が変わったか」や「何を学んだか」といった記述では，生徒の一人ひとりが，真剣に考えながら記入している姿が見られた。内容も学習の成果が見られるものであった。

以上のことより，租税学習は生徒が租税の意味を理解し，かつ納税者として国政に主体的に関わることについて大変効果的であると思われる。

7　研究の成果と課題

（1）成果

○研究方法について

7月に実施した租税に関するアンケート調査から，生徒の実態を具体的に把握することができた。特に予想以上に税に対して否定的な生徒が多いことが分かった。また，税金が何に使われているのかや，消費税が増税した理由を明確に分かる生徒が少ないこともアンケートの結果から見えてきた。生徒の実態把握をすることにより，その後の実践授業の内容が組み立てやすくなった。

実践授業においては，本来なら4時間扱いの内容だが，アンケートの結果から，税の仕組みの学習に時間に時間をかけた。その成果が，事後調査の結果に現れている。また，岩沼市の財政を調べる活動を取り入れることにより，生徒の興味・関心も高められた。国政に対して主体的な考えをもつために，どの授業にも考える時間を設定した。事後調査での記述式の文章から，主体的に国政に関わろうとする生徒がいた。事後調査を行うことにより，生徒の変容を確かめることができた。

○実践授業から

・タブレットの利用は，生徒の興味・関心を高めるために効果的であった。NHK の番組は，税の種類や仕組みを理解するのに役立った。また，調べ学習を行う上でも非常に有効的であった。
・税金に関する資料「私たちの暮らしと税」を用いることで，生徒が税の仕組みや，種類，国家の財政などを知る上で有効的であった。
・ワークシートなどを使い， 考える時間を設定した。その後，意見交換したり，情報を共有するなどの時間を設けた。その学習の中で生徒は思考を深化させ，主体的な考えが養われたと考えられる。
・身近な地域（岩沼市の財政や政策）を調べることにより，税が自分たちの生活に大きく関わっていることを実感できた。
・これからの日本の財政という学習課題のなかで，国政について主体的に関わろうとする生徒が見られた。
・生徒が，租税をより身近な存在と感じ，納税の意義を理解できた。
・9 月に実践授業を行うことにより，10 月から学習する政治分野へとつなげやすかった。
・租税学習の実践授業を行うなかで，教師自身も税に関する専門的な知識を学ぶ必要性を感じ，教材研修に励むことができた。

（2）課題

・租税に関する授業は，例年 3 学年の公民分野で行う。経済的分野で教科書に沿って進むと 11 月の半ば頃である。よって，今年度は日本国憲法の学習のなかで，国民の三大義務の一つである「納税の義務」から租税学習をつなげることにした。しかし，行政分野を詳しく学ぶ前に取り入れたので，専門的な語句や地方自治の説明をする必要があった。
・実践授業の 5 時間は，調べる学習や情報の共有，考える時間などが主な学習内容だった。その結果，重要語句の意味を理解したり，覚えたりする基礎的な分野が手薄になってしまった。よって，ワークブックなどを使いながら補充の時間を設ける必要があった。